

明和病院 消化器内科専攻医プログラム

1. 後期研修の対象者と目的

研修指定病院で2年間の初期研修を終了し、プライマリーケアを中心とした基本的な臨床能力を有する卒後3年目以降の医師で、将来消化器内科を専門とし、内科学会専門医、消化器病学会専門医、内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医など専門医取得の意志のあるものを主な対象とする。明和病院消化器内科の後期研修プログラムは、初期臨床研修をさらに発展させ、はば広く消化器病学を理解した上で、質の高い医療を行う専門医を養成することを目的としている。また後期研修終了後には消化器、消化器内視鏡、肝臓の各専門医資格を獲得することを目指すものである。当院は日本消化器病学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設および日本肝臓学会認定医制度認定施設であり、本研修期間は専門医取得の際の指導施設在籍期間に充当できる。

後期研修の到達目標：

1. 消化器器疾患全般にわたる病態生理とその治療法を理解し、診断法、治療手技を習得する。
2. 経験症例について学会発表や症例報告を行う。

1年目

内科疾患を広く経験するために、消化器内科以外の救急医療にも携わる。消化器内科では主に入院患者の担当医となり、主治医とともに診療を行う。初期臨床研修による知識・経験を基に、消化器疾患に対するより専門的な診断、治療、技術を学ぶ。腹部CT、MRI、腹部血管造影の読影法などを修得し、検査としては腹部超音波、消化管造影および上部消化管内視鏡検査を学ぶ。また緊急内視鏡検査、緊急内視鏡下処置、ERCP等の特殊検査や内視鏡治療の準備、助手ができるとともに、消化器疾患分野の検査、処置に関して患者および家族への説明ができるようになる。さらに消化器関連学会、研究会での発表を行う。

2年目

消化器内科の専門研修となる。主に入院患者の診療を行い、外来診療にも携わる。エコーガイド下肝生検、肝腫瘍ラジオ波焼灼療法を介助または自ら行えるようになる。内視鏡関連は上部消化管内視鏡検査に加えて、下部消化管内視鏡検査などを研修する。さらに上級医の監督下に緊急以外の簡単な止血、ポリペクトミー、食道静脈瘤結紮術・硬化療法等の上部消化管内視鏡治療ができるようになる。また、論文作成を行う。

3年目

日常診療と研修医等の指導を行う。消化器疾患に関わるすべての診療手技を指導医のもとに行う。これまで習得した技術を基に、検査は超音波内視鏡を、治療内視鏡はERCP関連処置、ポリペクトミー、EMR、ESD、内視鏡的止血処置、食道静脈瘤破裂の内視鏡治療などやPTCD、PTGBDなどの観血的侵襲的な手技も経験する。

2. 後期研修終了後の進路

下記の進路を選択することができる。

- 1) 4年目以降スタッフ（消化器内科医師）として当院で就業
- 2) 関連大学（京都大学、神戸大学、大阪大学、兵庫医科大学等）での研究
- 3) 他病院での消化器科診療のさらなる研鑽